

第2回部会における主な意見・指摘事項に対する回答

前回（第2回）の部会の委員意見のうち、本日の審議資料に含まれない内容について、以下のとおり、事務局回答をとりまとめた。

	主なご意見・指摘事項	事務局回答
1	○ 上水道水源について、石川や近木川といった小さな河川が上水道水源として利用されているが、こちらはどのような地域なのか。簡易水道水源として利用されているのか、あるいは、自治体が比較的広域に利用しているのか。	<p>近木川（貝塚市）については、上流の表流水を小規模な浄水施設で緩速ろ過方式により浄水処理している。日平均浄水量が約20m³と当該施設が担う給水エリアは限られている。</p> <p>近木川と同様、石見川（河内長野市）や、能勢町、高槻市、河南町、千早赤阪村などの河川についても、山間部等、市街地から離れた地域の給水を担う小規模な浄水場の水源となっている。</p> <p>一方、石川については、上流の河内長野市から大和川合流部付近まで、複数の市町村域の浄水場で表流水や伏流水を水源とし、急速ろ過方式等により浄水処理している。日平均浄水量が約3万m³と比較的大きい。</p> <p>なお、府下では平成29年度末までに全ての簡易水道事業が上水道事業に統合されている。</p>
2	○ 安威川ダムについて、供用開始後に、濁水の長期化や河床のアーマー化などから、水質や生物に対して影響を及ぼすと考えられ、注視していくべきだと考える。	<p>安威川ダムの整備に係る水質保全方策や自然環境保全方策については、安威川ダム自然環境保全対策委員会（H14.2～H24.7）、大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会（H25.2～）にて調査・審議されている。</p> <p>ダム供用開始後の濁水長期化への対策を含む水質保全方策については、貯水池の水質予測結果を検証し審議した結果、選択取水・浅層曝気・深層曝気により対応することとなっている。</p> <p>また、ダム下流河川の河床のアーマー化等への対策としては、フラッシュ放流計画が検討されている。</p> <p>今後も、当該審議会において承認された環境調査計画に基づき、安威川ダム周辺の環境調査が実施される予定である。</p> <p>（参考）大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 https://www.pref.osaka.lg.jp/damusabo/dam/aigawa_sizenkankyou.html</p>